

学生の皆さんとの懇談会に向けて

大阪市水道局（S58，修士S60）山野一弥

私は、昭和58年に工学部交通土木工学科を卒業、同60年には大学院修士課程を修了し、大阪市に就職いたしました。その年、京都大学の土木系学科からは、私を含めて6人の修士が大阪市に入っています。当時の大阪市では、土木系技術職員が配属される主な所属として、総合計画局（現計画調整局）、土木局（現建設局）、港湾局、下水道局（現建設局）、交通局、水道局があり、その6人はきれいに振り分けられ、私は水道局へ配属されることになりました。そして、現在、23年目を迎えております。

学生時代は、河川工学研究室に在籍していました。修士論文テーマは「境界要素法を用いた平面二次元流の解析に関する研究」であり、数値計算を主体とした研究をしていました。

また、大阪市水道局に入ってから、配水池など浄水場内にある施設の設計業務や、配水管や浄水施設の整備事業計画に関する業務に従事してきました。その後、従来の急速ろ過方式による浄水処理に、オゾン処理・活性炭処理を付加する高度浄水施設の整備に係る設計及び事業計画に関する業務、淀川からの取水に関する検討業務などに従事してきました。

現在は、震災等災害対策関連事業の調査、立案、連絡調整及び工程管理に関する業務や、災害に関する調査研究に関する業務に携わっています。

例えば、上町断層系地震や、東南海・南海地震など、大阪市として想定している地震動に対して水道施設の被害予測を実施するとともに、その結果に基づいて応急給水計画や応急復旧計画の策定作業を進めています。また、東南海・南海地震による津波が発生した際には、海水が淀川を遡上していくことも考えられますので、それらによる浄水処理への影響等についても、調査研究を進めています。

さて、懇談会におきましては、大阪市の各局における業務内容を簡単に説明した後、大阪市の水道事業についてお話しします。

水道事業は、あまり、皆さんに馴染みがないかもしれませんが、これを機会に親近感を持ってもらえると幸いです。

まずは、大阪市の水道事業の概要について説明した後、大阪市水道局が、「施設整備」、「危機管理」、「技術開発」、「地球環境」の観点から打ち出した中長期的な施策の方向性や、それに基づいて、今年度から着手している配水管及び浄水施設の整備事業について説明します。

また、併せて、水道局における震災対策の考え方や上記の調査研究についても、説明します。

お付き合いのほど、どうぞよろしく申し上げます。